

「平成29年5月1日に思う」

「4」から「3」に。どうも理解しがたい数字です。衆議院小選挙区の奈良県の議員定数が1人減となり3人になる見通しです。これは「一票の格差」を問う裁判の結果、違憲状態にあると判断された判例が過半数を超えることをふまえた、選挙改革の一環として実施されるものです。

広報かわかみ平成25年8月号の「頑張ります！栗山です」のコラムでも、私はこのことについて「納得出来ない」思いを記させていただきました。

今、社会では、教育格差、地域格差や所得格差など、さまざまな格差が問題視されています。私はこれらの格差を是正することについて、何ら異議を唱えるつもりはありません。

しかしながら、国も地方も知恵を出し合って地方創生に取り組んでいるにもかかわらず、「東京への流れが止まらない」現実がある中、この作業を急ぐ必要がどこにあるのか、と疑問がつのります。ただでさえ地方や山村への「目が届かない」という実態のなかで、ますます「地方の声」が中央に届かなくなるのでは、と危惧しています。新たな国土形成計画で示されている「国土の均衡ある発展」からさらに遠ざかるように思えてなりません。

コチラもご覧ください。

広報かわかみ(平成25年8月号) コラム「頑張ります！栗山です」(3ページ)